



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	蜘蛛巣理論覺書
Author(s)	渡邊, 侃
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 7, 273-274
Issue Date	1939-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10672
Type	departmental bulletin paper
File Information	7_p273-274.pdf



蜘蛛巢理論覺書

渡 邊 侃

私が高岡先生在職三十五年紀念論文集に「需要及供給の弾力性より導出せる經濟循環の一理論」を出したのは昭和七年のことであるが、其の端緒を農業經濟學會で發表したのは昭和四年の春であつた。其の翌年にシュルツ、チンベルゲン及びリツチの三學者が同様の發表をしたことは私は知らずに居た。其の理論をカルドアは蜘蛛巢理論と名づけ、更に最近イジーキエルは之を以て古典派經濟學の放任論を覆すもので統制必要の根據たるものとした。

斯くの如き學說の發展はムーアやシュルツ又はイジーキエルの諸研究を讀んで居れば自然に出て來ることとは同時發見の事實から考へ得る。問題は之を如何に論理するやである。論理は數表的並びに幾何圖表的の上に解析數學的でなければならぬ。私の苦辛は其處にあり未だ少しく解け切らぬ點を持つて居るわけであ

る。
此理論は

(一) 需要弾力性に比し供給弾力性が小なる場合時間的に需要供給即ち價格と供給量の適應は振幅を收斂し不動に歸着する。

(二) 其の反對の場合は振幅が擴散し歸一しない。

(三) 兩者等しい場合は歸一せず永久に彷徨振動を續ける。

と云ふのである。

經濟界の事實現象として此各々があり得るわけであるが、自然淘汰的に二の如きはなくなり、三は存在する理である。一の場合も又稀となる。シュルツは謎の様に「封鎖社會では需要供給各の弾力性は歸一する」と云ふて居るが三の如き場合が多いことを示唆する。

併し短期間には又は三の如きこともある。例へば本邦米穀が變動の値幅を擴大せることある如きは、外地の供給力が増進し其の供給弾力性が増大したる如きによるであらう。

蜘蛛巢理論の經濟均衡理論破毀と云ふのは、前記に於て需要弾力性が供給弾力性よりも大なる場合自然均

(1) H. SCHULTZ : Der Sinn der statistischen Nachfragekurven., '30.

(2) J. TINBERGEN : Bestimmung u. Bedeutung von Angebotskurven,

(3) U. RICCI : Die "SYNTHETISCHE OEKONOMIE" von H. L. MOOR, Zeitschr. f. Nationaloekonomie, Wien, B. I. 5. 8, 30.

(4) N. KALDOR : A Classificatory Note on Determination of Equilibrium. Rev. of Economic Studies, Vol. I. '35.

(5) M. EZEKIEL : The "Cobweb" Theorem, Q. J. E. Vol. LII. No2 '38.

衡するが、其が等しいか又は逆なる場合永久彷徨又は波動の擴大によつて均衡しないことを考へ得るからである。私も後二個の場合が考へらるゝ故指導統制が必要だとは先の論文で述べた。イジーキエルの云ふ所と同様である。臺北高商の伊大地良太郎氏（南邦經濟第六卷第一號昭和十三年）は「古典派理論の樞軸には何人も知る如く價格（消費と云ふが正しからん）と生産、若くは需要と供給とに關する一假設がひそんでゐる。…即ちその均衡はたとへ何らかの原因に基いて破壊攪亂せられても再びいづれは元の正常に復する傾を持つと云ふ。…この過程は所謂摩擦の理論の説く所であり、減衰的振動理論こそ靜態經濟學の根本特徴であり、從つてその破綻を指摘せられる」とする、而も「擴散形は振動が次第に大となつて、遂には需要供給函數の變更を見なければ、一般均衡體系より消失除外されねばやまない。逆に之を靜態經濟學の救濟若くは擴充と考へる」云々。

思ふに、蜘蛛巢理論は、需要及供給の弾力性と云ふ限界効用學說と平均効用學說の折衷の如きものから出發して經濟界の波動を説明せんとしたものであつて、

各個の獨立せる需要者及び供給者が全體の需給關係を單に價格現象としてしか知らないと云ふことを前提として假定するものだから、それが知られ或は指導され又は何等か統制されると其波動はなくなることも出來やうと云ふのである。現實世界に波動が絶えぬことは其の知らるゝこと少きことを示す。自動減衰的振動理論が必ずしも古典派理論の樞軸ではなからう。個々の經營が大勢を自覺して適應すると云ふのである。それが事實に適應せず、必ず指導統制を要する、と云ふのはやはり事實に基づく外ない。經濟學として古典派は波動を扱はなかつたが、其を扱ふ必要が出來たと云ふに止まる。之れ恰も古典的物理学が運動の瞬間量即ち式の微分係數の均衡又は均等によつて説明せられたが、最近の量子物理学が、振動即ち無理數的理論を取入れれば説明が出來ず、之を取入るゝことによつて一方には定方向運動を説明し他方には振動を説明する途が開けた如きに似て居るものではあるまいか。

因みに Feckel はズイーキョと聞える様な名ださうである。エゼキエル、イジキールだのイズキールなどよりイジーキエルとした方が正しからう。

（昭和十四年二月中旬）

- (6) H. SCHULTZ: Statistical Law of Demand and Supply, '28.
Do. : The Shifting Demand for Selected Agricultural Commodities.
J. F. A. XIV. 2. '32.
- (7) 例へば土方成美、米價變動と景氣變動、日本學術振興會學術部第六小委員會報告、第十三冊昭和十三年 杉本榮一、米穀需要法則の研究、同第一冊昭和十年等參照